

神奈川異グ連の活動状況を伝える機関紙 &lt;第54号&gt;

**かながわ異グ連ニュース**

発行：神奈川県異業種グループ連絡会議 理事(事務局長) 芝 忠  
 〒231-0015 横浜市中区尾上町 5-80 神奈川中小企業センター5F  
 TEL045-633-5142 FAX045-633-5194  
 Email: [zan25564@nifty.com](mailto:zan25564@nifty.com) <http://www.kanagawa-iguren.com>

**2月の連続イベント**

芝 忠

2月は異グ連でもあまり経験したことがないような、連続イベントを次々に開催しました。しかも全部が国・県の補助事業絡みだ、ということも珍しく、担当官庁も経済産業省だけでなく、厚生労働省・文部科学省と多彩でした。いずれも目標との関係ではやや少な目でしたが、活気のある事業になりました。

開催日	補助事業名	担当官庁
	テーマ	参加者(目標)
1、2月2日(金)	平成18年度研究開発交流促進事業 異業種交流・産学 連携フォーラム関東ブロック大会in神奈川	経済産業省
	<b>航空宇宙分野の関東甲信越静岡ブロック中小企業大会</b>	187人(200人)
2、2月15日(木)	平成18年度(独)福祉医療機構高齢者・障害者福祉基金助成事業	厚生労働省
	<b>自立社会を可能にする体に良い創動運動講演会</b>	10人(20人)
3、2月17日(土)	新産学交流サロン(H18年度4地区合同サロン)	神奈川県
	<b>横浜野毛地域飲食店へエールを</b>	60人(100人)
4、2月27日(火)	(財)内藤泰春科学技術振興財団助成事業	文部科学省
	<b>日本の宇宙研究の最先端と技術開発への挑戦</b>	80人(150人)

- ①は既報のように、「まんてんプロジェクト」の3回目のイベントでしたが、本地域の新しいグループの発掘、ネットワークの構築に成功しましたし、航空宇宙分野の中小企業との関わりが浮き彫りになりました。また東京都や早稲田大学の新年度事業展開の様子が紹介されました。
- ②は、異グ連の「自立社会構築プロジェクト」の総会を兼ねての事業でしたが、これまでの総括的な取り組みの現状と、具体的な自立生活可能な器具の事例紹介が、初心者にもわかりやすく説明されました。バイオフィリア研究所の滝沢茂男研究員、鈴木運輸株の鈴木勝貴社長、横浜国大の高田一教授らが講演しました。
- ③は、予め「横浜野毛地域飲食店活性化プロジェクト」として業者側との交流を強く求めていましたが、今回初めて、一緒に取り組んだ本格的な地域交流イベントでした。メイン講演ははるばる北海道帯広の地で、「近代的屋台村」を創設した苦労話を北の起業広場協同組合坂本和昭専務理事にお願いし、参加者との野毛飲食店の出品料理で堪能しました。
- ④は、最近次々に打ち上げを成功させている(独)宇宙航空研究開発機構宇宙教育センターの的川泰宣教授に最近の宇宙研究の現状や成果の説明があり、続いて千葉工大の林友直教授、早稲田大学の長谷部信行教授、(財)内藤泰春科学技術振興財団の大森豊明技術士、まんてんプロジェクトの山口耕司社長がそれぞれ解説的な話をしました。

**広報活動にも工夫**

後半3つのイベントはいずれも一般向けの要素があり、どうやって知ってもらうかが大きな課題でした。そこで今回、異グ連の通常のお誘いとは異なり、思い切って新しい手法を開拓しました。

神奈川県庁商工労働部のOBや旧工業試験所のOB、県立高校や職業技術高校へ手紙を出し、異グ連の活動紹介とともに事業のPRを行いました。また試験的に異グ連のある横浜市中区や会場の国際ホテルの近傍や私の自宅のある金沢区内のマンションなどの集合住宅へちらしのポスティングを行いました。その結果、まったく新しい方々がご出席になり、今後の展望に繋げることが出来ました。また欠席でも激励のお手紙をいただいた方もありました。

各種の事情でたまたま2月に集中してしまいましたが、来年度は年間通じてバランス良く実施したいと思います。

ご参加いただいた方、お手伝いいただいた方々に感謝申し上げます。

**産学官交流サロンのコーナー****第19回横須賀サロン**

日時: H19年3月20日(火) 18:00~20:30

場所: 神奈川新聞・横須賀支社5F会議室 会費: 1000円

テーマ: **スターリングエンジンの始まり**

～コミュニティビジネスを探ろう～ 防衛大学名誉教授 鶴野省三氏

連絡先: 八幡 045-633-5142, 鶴野 046-836-6785

**おなじみ尾上町サロン**

日時: 毎月第一・三金曜日(3月16日、4月06日、20日)

場所: 神奈川中小企業センター5F 産業交流プラザ

連絡先: 芝、八幡、島津龍、鈴木

**(第18回川崎サロン) 産学連携シンポジウム「産学連携人材育成：インターンシップ報告会」****日時：H19年03月16日(金) 14:30～17:00 終了後懇親会開催**

場所：神奈川中小企業センター13階 第2会議室 参加費：無料(懇親会は1000円)

主催：横浜国立大学VBL(ベンチャービジネスラボラトリー) 共催：神奈川県異業種グループ連絡会議

内容要旨：○**横浜国大VBLのインターンシップ実施状況** 横浜国立大学客員教授(KSP取締役)志茂 武氏○**インターンシップ体験学生、受け入れ企業の報告、企業からの課題提起** 等

問合せ申込：氏名、企業名、連絡先をFAX045-339-4289横浜国大VBL事務局へ

**第8回 西湘サロン****日時：H19年05月14日(月) 18:00～20:00** 場所：あいおい損保小田原支社3F会議室話題提供：「**商標とは！知ろう、取ろう、儲けよう！**」神奈川中小企業センター知財コーディネータ森啓次氏

参加費：1000円 問合せ：芝、島津俊之、吉池 045-633-5142

**かながわ異グ連の会員グループやプロジェクトの状況****まんてんプロジェクト最近の話題**

千田BC

- 2月21-23日インテック大阪にて開催された中小企業総合展 in Kansai(主催：中小企業基盤整備機構)にまんてんプロジェクトが出展した。大阪での出展は今回が初めてであり、今後関西方面の活動に繋げるのが目的である。関西企業からも関心が寄せられた。
- 2月22日、全国の中小企業団体が集まる【全国中小企業団体連合会】にてまんてんプロジェクトを紹介した。
- 2月27日、横浜国際ホテルにて(財)内藤泰春科学技術財団と神奈川異グ連の共催により【日本の宇宙研究の最先端と技術開発への挑戦】セミナーを開催した。文部科学省、関東経済産業局からの来賓祝辞のほか、わが国の宇宙開発の草分けであり第一線を担うJAXAの的川教授、東大の林名誉教授、早稲田の長谷部教授、内藤財団の大森評議員、まんてん会員でオービタルエンジニアリングの山口社長の発表があった。参加者は80名と盛況であった。
- 最近、新聞情報などで見たとしてまんてんに興味を寄せる企業が増加している。またJASPAのホームページを一新したところ、測定業務の新規依頼があるなど会員企業やビジネスの増加が見られる。
- 早稲田大学との連携による航空宇宙プロジェクト(NIKE)は毎月会合を持ちテーマを探しているが、最近進展が見られるようになった。いずれ発表できる見通しである

**H18年度4地区合同サロン 横浜野毛地域飲食店へールを(報告)**

織方BC

異グ連主催の標記イベントは「野毛・関内地域活性化プロジェクト」が事務局となり、2月17日(土)に“野毛にぎわい座”において開催されました。

当日午前にはイベントに先立ち、講師の帯広・北の広場協同組合専務理事・坂本和昭氏を囲んでの勉強会を開催しました。帯広には9つの地域活性化プロジェクトがあり、その一つの「屋台村プロジェクト」は、インキュベーション施設を兼ねた固定式屋台(約3坪)が20ブース有り、その卒業生が市内各所で個店を経営するという仕組みです。観光客と同時に地元客を意識した発想と言うことです。そのほかにも地産地消の料理研究会、子供向けの絵本発行、週2回のメディア連載などが活動しているとの事です。

さて午後の「にぎわい座」に場所を移しての合同サロンでは、プロジェクトメンバーの中野隆の司会により、芝忠理事挨拶でスタートし、坂本和昭氏の基調講演、豊富なイベントを織り込んだ交流会と、夜が深けるのも忘れる盛況でした。交流会では、野毛地区街づくり会副会長・神田信男氏挨拶、成田山横浜別院・筒井照琢住職の乾杯の後、正調「野毛山節保存会」代表・片山浪さんの三味線と歌唱指導で大いに盛り上がりました。参加者は60名余りで、横浜市大・木村琢郎助教授と学生、横浜行政センター・近内商工労働部長、地元企業の皆様など産学公交流サロンにふさわしいメンバーが揃いました。

今回のイベントには、野毛地区街づくり会・藤澤智晴事務局長からの心配りをいただき、また神奈川中小企業センターのビジネスコーディネーターの皆様やプロジェクトメンバーなどの多くの方の協力があり、メンバーの一人として心から深謝すると共に、野毛地区の更なる活性化につながれば、この上ない喜びとやり甲斐はありませんでした。

**第71回日韓ビジネス協議会報告**

高橋BC

- 日本企業紹介：(株)アイ・シー・ジー・ビー・・・代表取締役 本田 八登三氏  
「JOGIDEN」(助技伝)5軸対応！プレスブレーキ用バックゲージコントローラーの紹介、精密の板金加工の技能ノウハウをできる限り本システムで伝承を可能にしている。
- 基調講演：「自動車の後方安全確認システムARGUS」開発・苦労話など・・・(株)アトム技研 西村 勲氏  
箱型のトラック向けの後方安全確認システムで、自動赤外線投光付きの夜間でも対応するバックカメラおよび

4つの超音波センサによって確認する。運転者はモニターを確認しながらバックをする。開発には大変苦労されたようである。

### 3月の第72回日韓ビジネス協議会

日時：3月22日(木)15:15～17:15 場所：神奈川中小企業センタービル 5階会議室  
 会費：1,000円(懇親会費も含む) 内容：次第は折衝中ですので追って決定致します。  
 連絡申込：TEL045-311-0094 高橋迄 MAIL：[mtakahas@tb3.so-net.ne.jp](mailto:mtakahas@tb3.so-net.ne.jp)

### シフト21

有村BC

「シフト21」は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループとして、業種・業態を問わない幅広い交流を目的に、原則第二火曜日に定例会を開催しております。3月定例会は3月13日株式会社テクノロード代表取締役杉浦登様に「ロボットビジネス最新事情 ～2025年7.2兆円産業の予測と現状」と題してお話いただきました。4月定例会は4月10日に工場見学会を開催し、優れたセル生産方式、チーム改善活動、社員活性化制度を実践している企業を訪問します。(なお、見学募集は締め切りました。)

シフト21ではゲストの皆様の参加を歓迎しております(初回参加は無料)。お問合せは有村までお願いいたします。(hda00467@nifty.com)

### 関連イベントのお知らせ!!

#### かながわ21世紀ビジネスフォーラム ～快進撃中小企業の秘密はこれだ～

全国中小企業の約1割もの企業は「快進撃」を続けている。その共通した「秘密」を聞くことができます。

日時：H19年3月26日(月)(開場13:30)14:00～16:50 (17:00～交流会)

場所：神奈川県民ホール会議室 参加費：無料(交流会参加者は3000円)

内容：基調講演「目指すべき中小企業像」坂本光司氏 静岡文化芸術大学文化政策学部教授

パネルディスカッション 山田伸顕氏 (財)大田区産業振興協会・専務理事

竹内利明氏 電気通信大学産学官等連携推進本部特任教授

西浦道明氏 アタックスグループ代表パートナー(公認会計士)

南出健一氏 (株)オーパシステムエンジニアリング代表取締役社長(異グ連議長)

コーディネータ 岡本義行氏 法政大学大学院イノベーションマネジメント研究科教授

問合せ申込：神奈川県中小企業団体中央会 TEL045-633-5132 Fax045-633-5139

[daihyo@chuokai-kanagawa.or.jp](mailto:daihyo@chuokai-kanagawa.or.jp)

#### かながわコンソーシアム事業 H19年度テーマ募集

神奈川県が特定する新規成長産業9分野の事業化を企業、大学、研究機関などとの連携により推進していく事業です。

支援内容：産学公連携コーディネート、事業化促進委託費(3テーマ)、連携体構築支援、見学会、展示会出展支援等

募集：4月中旬予定 045-633-5192

神奈川中小企業センター企業化支援部交流支援課

#### 第20回先端技術見本市

##### テクノトランスファ—inかわさき2007

企業製品のPR、販路拡大、商取引の促進を目的とする。

日時：H19年7月11日(水)～13日(金) 3日間

場所：かながわサイエンスパーク(KSP)

部門：HW/SW、技術要素、産業機器、環境関連機器等

出展料：1小間(2mx2m)63,000円

問合せ：(社)神奈川県産業貿易振興協会・テクノトランスファ—inかわさき事務局 045-671-7058

### 投稿原稿

#### より良い「人間社会」のために

井上誠一・異グ連交流アドバイザー

1 「コミュニケーション」と言う観点から見た人間の多様性：第52号(新年号)に掲載させていただきました。

2 シニア世代からみて 今の世の中は -

シニア世代から見て どうも 今の世の中がおかしい ??今 なにが起こっているか? などの議論が連日 新聞紙上などを賑やわして メディアの好餌となっている。

\* 「人間の基本の倫理観が 失われている」 - 「会社の倫理観?」 - 「重視すべき文化の価値観?」は どこへ 行ったのか?

現代の若者に対して いろいろな見方があるが 一面を捉えれば その少年時代に野や山をかけめぐり 川に落ちこちそうになるなど 身の危険を感じる体験がないまま育ってしまった。体験が少ないため 感動が少なく 失敗を恐れる傾向が強い。(失敗から学ぶという 本来なら少年時代にすべき体験が少ない) 何故そうなったのだろうか?

今は ゲーム世代だから 知識の積み上げのみで 頭でっかちな少年時代を過ごしている。そのために 一方では 知識の巧妙な運用には 優れている。が 新しいこと=特に 知的な失敗は 体感できずに襲ってくるので Challenge することへの二の足を踏む。

現代の世相であるから この傾向を変えることは 不可能である。

そういう認識のもとに 世の中の動静を見なければ ならない。シニア世代が過ごした 30—40 年前とは 全然 異なる世の中になっているということである。

3 声を出して挨拶する ということ 人間として 笑顔で 朝の挨拶をしよう !!

「お早うございます。今日は ご気分いかがですか ?」 — と

人間 皆 違う ! が この挨拶で 相手のその日の気分が わかる — 変化がわかる !

人間 すべて 朝 眠りから覚めれば “おはよう!!” と 声を出して挨拶する。この簡単なコミュニケーション — 挨拶の一言で お互いが顔を見合っ て いつもと同じように元気だな! とか ちょっと寝不足で 機嫌が悪いなあ! とか タベ 飲み過ぎよったなあ! とか が分かる。コミュニケーションの第一歩である。

また 冒頭で国による違い 人種による違いなど 述べたが 日本ででも 外国ででも 異邦人に会った時 自分の言葉で 挨拶する — おはよう! Good Moring! Chao! Hi !! — 何でも 良い。挨拶をすれば それは 私は 君の敵じゃないよ! という態度の表しであって 人間関係=コミュニケーションは そこから 始まる。が 最近の若者は 挨拶の仕方を知らない と シニア世代はいう。

会社で隣同志であっても メールで情報交換している。

しーんとした Office — なぜ 挨拶をしないのだろうか? 挨拶をし コミュニケーションを図り 相手の発言から 自分にプラスになるものを得る — 非常に有益に思えるのは 私だけだろうか ?

4 実務に現れるコミュニケーション (意思疎通) の例—筆者の体験例

**議事録は 前もって準備しろ! = 会議直前の意志疎通**

皆それぞれ自分の仕事を持って働いている。その貴重な時間を割いて会議に出る。その時に大切なのは会議参加者の足並みを揃えるために 事前確認が一番重要である。いくら親しい同僚でも 議論している間に意識のばらつきが出てくる。そこで 会議の直前に「今日の会議は これが 目的なんですから」と ささやいて 会議の方向性の念を押す。そうすれば 効率のいい会議—修正された議事録が出来上がる。この発想を 更に推し進めて 議事録の原案を前もって作成しておくという提案をしたい。筆者の経験談を例として挙げておく。

1980年代であるが 筆者はエンジニアリング会社の検査を担当していた。北欧のメーカーに発注された機械の製作時の品質管理を 弊社に代わって 実施してもらうべくオスロの DNV という検査会社へ 打ち合わせに出かけた。オスロに着いて Hotel に入ったのは 日曜日の午後—翌月曜日の先方(DNV)との会議に備えて 資料を準備している時 ふっと思いついて 翌日の議事録を先に作成しておいた。何故なら お互いに検査業務のプルー議論して決めなければならない POINT は 分かっている。項目ごとに こちらの主張は かくかくである。予測される DNV 側の回答は こうであろう。という想定で 手書きで作成しておいた。翌日 9時に DNV を訪問し お互い初対面の挨拶の後 すぐ手書きの原稿をタイプしてもらい お互いにそのコピーを持って 打ち合わせに入った。

論点が明確に書かれているため 議論がはずみ 同意したものは そのまま—違った結論にいく項目は その箇所だけ修正すればよい。お互いに 初対面にもかかわらず 話がはずみ 午前中に会議は終了—昼食はワインを飲みながら 個人的な歓談をし 更に 相互理解が深まり その後の仕事は非常にスムーズに運営された記憶がある。

この例は 文書でビジネス上のコミュニケーションの Point が明確化されていたため お互いに立場の違いを認識し会って 議論され 確立された信頼の上で 個人的なコミュニケーションでも 成功した例である。

モノカルチャーの国—日本とは 異なり シンガポールや 米国では 人種や宗教、教育水準が多様で 物事に対する理解も様々だ。あるグループにとっては 当然のことが 別のグループにはさっぱり分からないということが多々ある。人によって「当たり前」が違うから 認識を確かめ合いつつ 議論を積み重ねることが必要である。そうした議論の中で、これまで常識だと思っていたことの間違いに気づき 根本から考え直そうという展開にもなる。

日本のように 皆が同じ教育を受け 同じ新聞を読み 同じ「当たり前」を共有しているモノカルチャーでは 「どうして?」という疑問を発しにくい。会議も大部分が暗黙の了解のうちに進む。

「違いがある」という共通の認識に立って あらゆる方法でコミュニケーションを図り より良い社会へ—コミュニケーションの原点ではなからうか ?

**5、若者・活性化のためのキャリア育成は ?・次回 (第5号) にて掲載します。乞うご期待!!**

皆様からのご投稿をお願いいたします。(会報編集担当)mail [t-onogawa@pro.odn.ne.jp](mailto:t-onogawa@pro.odn.ne.jp) 小野川へお送りください。

神奈川異グ連への連絡問合せは、事務局当番者 tel、045-633-5142 fax、045-633-5194 芝、八幡、島津(龍)、杉本へ